

国際おきなわ

KOKUSAI OKINAWA



第42回 外国人による日本語弁論大会

主催／公益財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団 後援／外務省 Ministry of Foreign Affairs of Japan・沖縄県教育委員会・沖縄県文化振興会・NPO法人 国際化推進財団・在沖米国防領事館・JICA 独立行政法人国際協力機構沖縄センター
共催／沖縄県・沖縄テレビ放送 協賛／沖縄セルラー・Orion オリオンビール株式会社・JTA・セブン-イレブン 協力／パレットグループ



第42回外国人による日本語弁論大会



公益財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

Okinawa International Exchange & Human Resources Development Foundation (OIHF)

〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐3-4-1 3階

TEL : 098-942-9215 FAX : 098-942-9220

HP : <https://kokusai.oihf.or.jp>

FB : <https://www.facebook.com/oihf60>



外国人による日本語弁論大会

「第42回外国人による日本語弁論大会」が去る2月8日（土）にパレット市民劇場で行われました。13の国と地域から31名の応募があり、今大会にはアジアやヨーロッパ出身など10の国と地域から12名の外国人が登壇しました。

沖縄県知事賞（最優秀賞）を受賞したのは、琉球大学に在籍するポーランド出身のドマガワ・ダリア・アンナさんです。彼女は「私が心を寄せるもの」と題し、沖縄の言葉「しまくとぅば」への熱い想いを語りました。友人から島唄を勧められたことをきっかけに、しまくとぅばの世界に魅せられたドマガワさん。大学の授業を通して、しまくとぅばの美しさや、その歴史に深く触れました。かつて、しまくとぅばは標準語の普及政策により、使用が制限された過去があります。ドマガワさんの母語も、歴史の中で同様の経験をしたことから、しまくとぅばへの思いは一層深まったようです。「しまくとぅばは、この土地で暮らしてきた人々の命の証であり、感情を表現する宝物」と彼女は語りました。彼女の熱意あふれるスピーチは、審査員をはじめとする観衆の心を打ち、しまくとぅばの魅力を再認識させてくれました。ドマガワさん、沖縄県知事賞受賞おめでとうございます！

沖縄県国際交流・人材育成財団理事長賞（優秀賞）を受賞した、ミャンマー出身のリン・レ・ティリさん。完璧主義だったリンさんは、日本での留学生活で数々の壁にぶつかり、自信を喪失しかけていました。そんな時、アルバイト先で耳にした「なんくるないさー」という言葉が、彼女の心に深く響きました。「なんくるないさー」という言葉に出会って以来、リンさんは何か失敗があっても、落ち込んで一瞬、失敗を受け入れて、もう一回頑張ってみようと考えられるようになったそうです。なんくるないさー精神を学んで更にパワーアップした彼女は、大阪の大学に進学します。リンさんの今後の活躍が楽しみです。

沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課に所属する、韓国出身のイ・ヨングンさんは、沖縄テレビ賞（優良賞）を受賞しました。学生時代から日本語の勉強を続けてきたイさんですが、「国際交流はどこに役立つのか」という問いに対して、明確な答えを見出せず、悩んだ時期があったそうです。しかし、様々な経験を重ねる中で、「国際交流の最も大きな魅力は、その楽しさにある」という結論に至りました。今回の受賞スピーチでは、自身の経験を基に、言葉の壁を越えて人々と交流することの喜びや、異文化に触れることの素晴らしさを熱く語りました。イさんは今後も、交流の「楽しさ」をより多くの方々に知ってもらうために活動をしていくそうです。

審査員特別賞を受賞したのは、フランス出身のビトー・リルさん。彼女は、フランス語と日本語の対比を軸に、日本語の奥深さについて語りました。ビトーさんは、日本での生活の中で、日本語の持つ繊細な表現力に魅せられたといいます。特に、自然を表現する言葉の豊かさに心を奪われ、「粉雪」「入道雲」「せせらぎ」といった言葉が持つ、繊細で美しい響きを力説しました。「フランス語では自然を客観的に描写することが多いが、日本語では繊細に自然を捉え、シンプルな言葉一つで、深く複雑な感情を表現しています。」と、ビトーさんは話します。フランス人の彼女から見た日本語の魅力は、私たち日本人が普段見過ごしている日本語の美しさを改めて気づかせてくれました。

今回のスピーチコンテストでは、ドマガワさんをはじめとする多くの参加者が、素晴らしいスピーチを披露し、大会を大いに盛り上げました。ご協力頂いた関係者の皆様、心より感謝申し上げます。

受賞された皆さん、おめでとうございます！！



最優秀賞

Domagala Daria Anna
(ドマガワ ダリア アンナ)



優秀賞

Lynn Lat Thiri
(リン レ ティリ)



優良賞

이 영근
(イ ヨングン)



審査員特別賞

Biteau Lylou
(ビトー リル)

災害時外国人支援サポーター養成・スキルアップ研修

令和6年12月13日（金）、JICA沖縄にて「災害時外国人支援サポーター養成・スキルアップ研修」を開催しました。研修報告に先立ち、本事業の概要を説明します。

事業概要

本事業は、災害発生時の外国人支援のみならず、在住外国人を含む県民全体の防災・減災意識の向上を目的として、平成28年度より実施してきました。

災害時多言語支援センターをご存じでしょうか。当財団は、沖縄県と協定を締結しており、大規模災害発生時に県から発動要請を受け、多言語支援センターを立ち上げて外国人支援を行います。

当財団の事務所は海拔約3mの宜野湾市伊佐に位置しています。そのため、災害発生時、事務所が危険と判断された場合は、JICA沖縄または宜野湾市役所内に多言語支援センターを設置させていただき協定を、JICA沖縄および宜野湾市役所と締結しています。

多言語支援センターの具体的な支援内容は以下の4つです。

1. 災害時情報の多言語翻訳・発信
2. 外国人からの相談・問い合わせへの多言語対応
3. 外国人の被災・避難状況の情報収集
4. 災害時外国人支援サポーターへの協力依頼

4つ目のサポーターへの協力依頼という点で、県民の皆様のご協力をお願いしたく、毎年サポーター養成講座や避難所運営訓練を実施してきました。今年で9年目となります。

サポーターには、ご自身やご家族の身の安全を確保された上で、それぞれがお住まいの地域で、ご自身のできる活動をお願いしたいと考えています。

可能であれば、サポーターには、例えば、お住まいの地域の避難所にいる外国人の被災状況を把握し、多言語支援センターに共有していただきたいと思います。多言語支援センターは情報を整理し、県の担当部署に共有します。その後、県から外務省へ情報が報告され、外務省を通じて各国の領事館に伝達されます。各国は伝達された情報をもとに、帰国のためのチャーター便の手配や必要な支援を判断することになります。

現在、宮古・石垣を含め、179名のサポーターにご登録いただいています。

英語、中国語、ベトナム語、ネパール語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、韓国語、インドネシア語などの語学が堪能なサポーターもいらっしゃいますが、外国語ではなく、やさしい日本語で、気象庁や消防、市役所職員、医療関係者など、その他にも様々な職種の方々がサポーターに登録してくださっています。

研修報告

今回の研修は、株式会社サンダーバードの翁長さんを講師にお招きし、災害時における外国人支援の基礎についてお話ししていただきました。

災害発生時、在住外国人や観光客は、言葉の壁や文化の違いから様々なリスクに直面し、災害弱者となることがあります。求められるのは、多言語・多文化に対応した支援です。

研修の後半では、様々な事例をもとに、参加者同士で考えました。外国人と一言で言っても、盲導犬を連れて避難してくる外国人もいらっしゃるかもしれません。持病を抱えた高齢の外国人もいらっしゃるかもしれません。出産間近な外国人もいるかもしれません。研修には様々な職種や経験をお持ちの方々にご参加いただき、多様な視点から支援のアイデアが出されました。



サポーターの募集

この記事をお読みいただいた皆様にも、ぜひ災害時外国人支援サポーターにご登録いただきたいと思います。災害発生時は、誰もが大変な状況に置かれます。そのような状況下で、5分でも10分でも、共に災害時外国人支援にご協力いただければ幸いです。

毎年、災害時外国人サポーター養成講座を実施していますので、肩の力を抜いてご参加ください。



第2回リーガル・ライフサポーター スキルアップセミナーを開催しました！

11月2日（土）、P's SQUAREにて第2回リーガル・ライフサポータースキルアップセミナーを開催いたしました。今回は、法テラス沖縄のご協力を得て、大嶋功弁護士にご登壇いただき、「国際離婚」および法テラスの活用方法についてご講演いただきました。参加者からは、非常に有益な内容であったと高い評価をいただいております。

このシリーズのセミナーは、今年度から「リーガル・ライフサポーター」のスキルアップを目的として、法律知識を深めるために開催を始めました。リーガル・ライフサポーター向けではありますが、一般の方にも有益な法律知識を提供できるため、一般の参加も大歓迎です。

ー参加者の声ー

大嶋先生、財団の皆さん、まずはこのような機会を下さってありがとうございます。とても分かりやすく、優しい大嶋先生のお人柄が伝わってきて心に響きました。いろんな例を惜しみなく出して説明下さったので、とてもわかり易かったです。1つご提案させて頂けるならば、可能であれば1つの事を例えば深掘するようなセミナーがあってもいいのかなと思いました。もちろん、離婚にはいろんな事情が絡んできて、いろんなことを網羅しないとけないのかもしれませんが、そこに至るまでに分からないことがもちろんあったりするので、そういう項目毎にセミナーがあってもいいのかなと思いました。

今日何より響きましたのは、助けを必要とする人を助けたいという気持ちを持ち続ける、ということです。そのような人間でありたいと思います。

セミナーでたくさんのことを学ばせて頂きました。活かしていきたいと思っております。大嶋弁護士の優しさやスペシャリストとしての経験や心構えが伝わってきました。私の職場の部署で、英語が出来るのは私だけで、しんどい時もありますが。勝手に（失礼だとはわかっておりますが）戦う仲間！のような共感を覚えました。大嶋様ご自身もご家族も大切にされて、お体に気をつけてお仕事等がんばって下さい。貴重なお話、ありがとうございました。

通り一辺倒な法律の説明ではなく、大嶋先生のお人柄や思いが詰まった、とてもよいセミナーだと感じました。ありがとうございました。扶養者の健康保険についての訂正もご連絡下さり、ありがとうございます。大嶋先生のセミナーをシリーズ化頂ければ、嬉しいです。

ーセミナーの様子ー



外国人のための無料法律相談会

今年度から、外国人相談窓口の周知と外国人の間での浸透を図るため、定期的に外国人のための無料法律相談会を開催する予定です。この相談会は沖縄県弁護士会との共催で、毎回弁護士会の国際部から1名の弁護士が相談対応を行います。また、事前予約に応じて通訳を手配します。

初回は宜野湾市役所の協力を得て、12月5日（木）に宜野湾市役所で開催しました。参加された相談者はかなり悩みが晴れた様子でした。困りごとがなく、相談の必要がないのが一番理想ではありますが、いざという時にこのような相談ができる場所があることを思い出せることができれば、相談窓口の存在意義があると思います！

また、沖縄県からの委託を受けて、在住外国人向け法律・生活無料出張相談会を2月21日（金）に石垣市役所、2月28日（金）に宮古島市中央公民館で実施しました。



相談会の様子 ※写真掲載の了承を得ています



相談会会場

在住外国人のための生活ガイドブック 「おきなわ生活」を発行します

沖縄県からの委託を受けて本ガイドブックを作成しました。

沖縄県での生活を始める外国人の皆さまに向けて、行政手続きやゴミの出し方、交通ルールなどの生活に役立つ情報を、日本語、英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語の5言語で提供します。また、各種相談窓口の紹介や防災情報など、安心して日常生活を送るために重要な情報も掲載しています。

本ガイドブックは、2025年3月末に発行を予定しており、冊子版に加え、沖縄県のホームページにてweb版も公開予定です。

沖縄県で「安心・安全・自立」した生活を送るために、このガイドブックが皆さまのお役に立つことを願っています。



令和6年度 外国人相談窓口の 相談者国籍・地域及び相談内容 件数 (令和6年4月1日～令和7年1月末現在)

※1名の相談者の複数回のやりとりはすべて1回と計算しています。

相談者国籍・地域（件数）			
アメリカ	25	イスラエル	1
中国	18	インドネシア	1
フィリピン	8	ウズベキスタン	1
ブラジル	5	オーストラリア	1
韓国	5	カナダ	1
台湾	5	シリア	1
ウクライナ	3	スペイン	1
ロシア	3	チリ	1
日本	3	フランス	1
アフリカ諸国	2	ポルトガル	1
ネパール	2	メキシコ	1
ベトナム	2	モロッコ	1
マレーシア	2	ヨーロッパ	1
アルゼンチン	1	南アフリカ	1
イギリス	1	不明	1
総計			252

相談内容	(件数)
日本語学習	48
労働・賃金・解雇等	30
在留資格・ビザ・旅券	29
医療・健康・心理相談	23
結婚・離婚・家族等	16
住居・不動産	13
福祉	9
通訳・翻訳	8
刑事・犯罪・警察	7
手続一般	4
交通事故・損害賠償	3
消費者トラブル	3
相続	3
保険・年金	3
防災・災害	3
子ども・教育・学校	2
対人トラブル	2
出産・子育て	1
その他	45
総計	252

OIHF法人賛助会員様

(順不同)

おきなわ国際協力・交流フェスティバル2024

に出展しました！！

2024年11月24日（日）、浦添市のJICA沖縄で開催された「おきなわ国際協力・交流フェスティバル2024」の展示ブースに出展しました。

今回で第29回目を迎える本フェスティバルでは、世界の歌や踊りが楽しめるステージイベントをはじめ、沖縄県内の国際協力・交流団体によるブース出展やワークショップ、OIC食堂やキッチンカーの多国籍料理など、多彩なプログラムが催されました。

当財団のブースでは、日本語教室や外国人法律・生活相談窓口の案内、災害時外国人支援事業など、さまざまな活動を紹介しました。事業内容に関連した展示型のクイズコーナーでは、大人から子どもまで多くの来場者が立ち寄り、楽しみながら挑戦しているようでした。

また、防災バックの中身や非常食を展示したコーナーでは、実際にグッズを手にとってご覧いただき、来場者の関心の高さが伺えました。

参加型のイベントとして、当財団の理事長によるペン習字教室を1回、クイズ大会を2回開催し、いずれも多くの方にご参加いただき、とても盛り上がりました。

ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました。



防災バックの中身



財団のブース



掲示型クイズコーナー



クイズ大会



ペン習字教室

国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール中央大会

優秀賞（国際連合センター賞）受賞おめでとうございます！！

八重山農林高等学校 2年 高西 萌奈メイ さん

「世界の平和と安全を守るために国連がいま果たすべき役割とは何か」

私はフィリピンで生まれ育ちました。父はフィリピン人で、母は日本人です。私は第二次世界大戦について、学校と祖母から聞いた話で学びました。祖母の父は日本兵に殺され彼女は多くの悲しみや恨みを抱えて生きていました。私は歴史を学ぶうえで、自分自身のルーツが過去の戦争で苦しんだ人々と関係していることに悩むことが多々ありました。それと同時に、フィリピンでは私たち家族のもつ日本人というバックグラウンドが原因で、家族が差別に直面した話も聞きました。

これらの経験から、戦争はどちら側にも深い傷を残し、結局のところ、真の勝者はいないということを学びました。

かつて互いに戦争をしていた国に生まれた私は、今日の戦争で苦しんでいる多くの人々に深い悲しみを覚えます。しかし、その事に関らず私たちは協力し合い、平和を創造できるという確証があります。星空の上、地球のはるか400キロメートル上空にある国際宇宙ステーションでは、政治的な違いを持つ世界中の科学者たちが協力して軌道を維持しています。宇宙船の中では、異なる国籍の宇宙飛行士たちが協力し合い、共に生活し働いています。

もし私たちが宇宙でこの協力の精神を維持できるなら、地球上でも同様のことを目指すべきだと考えます。国連も同じように対立する相手とも協力して世界平和を達成するアプローチを採用すべきです。

2024年6月15日と16日には、スイスで平和サミットが開催されました。目的はウクライナにおける公平で持続可能な平和への道を共通理解することでした。しかし、この会議にはロシアが招待されなかったため、いくつかの国が宣言に署名しませんでした。

「信頼できるプロセスにはロシアの参加が不可欠であることを強調することが重要です」とある外相は言いました。

そして、今年の8月9日に長崎県で行われた平和式典にはイスラエルが招待されませんでした。そのため、先進七カ国の代表も式典に出席しませんでした。

なぜ平和を促進するはずのイベントが、逆に国々の間に分裂を生んでしまったのでしょうか？ それは、真の平和は排除によって達成されるものではないからだと考えます。持続可能な平和には、すべての声がテーブルに揃い、建設的な結果を生み出す必要があると思います。

これらの問題は非常に複雑ですが、それを単純化することではなく、みんなで前進するための対話を促すことです。

国連は国際的な外交を育む重要な役割を果たしています。しかし、国連が本当に模範を示すためには、すべての国が排除されることなく、暴力に頼ることなく紛争を解決できるように、対話のプラットフォームを継続的に向上させる必要があると思います。

一部の人は、第2次世界大戦が日本への原子爆弾の投下によって終わったので平和は暴力によって達成できると主張するかもしれませんが、それは同時に核戦争と言う脅威をもたらしました。私たちの世代が本当に世界平和を望むなら、協力と非暴力を受け入れるべきだと思います。これらは単なる理想ではなく、唯一の持続可能な道だと考えています。

最後に、フィリピンを離れる前に、祖母は私を彼女が育った村に連れて行き、決して忘れられない言葉を言いました。「私の父はここで日本兵に殺されたの。私の母も痛い目にあったのよ。でもあなたの母が私の息子と結婚してくれたおかげで、私は起こったことを赦す力を見つけたのよ。そして、彼らが出会ってあなたが産まれたことに深く感謝しているわ。」彼女の言葉に私は深く感動しました。

なぜなら、彼女の赦しと感謝は、私の痛みをも癒やし祖母とのつながりを取り戻したように感じたからです。未来に生きる子どもたちには戦争による苦しい体験や辛さや憎しみを背負わせるのではなく、お互いが協力し合う平和な世界を継承できるように願っています。

